The gamall farm news

座・ガモールファーム 通信

Vol. 43 | 2026.7.01

埼玉校舎で育つ甘長唐辛子

7月10日と11日は鴨台盆踊り。皆様ぜひお越しください。

七夕の候

まだまだ梅雨真っ盛りですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。キャンパス農園班は新たなメンバーも続々と加わり、本格的に活動がスタートしました。伝統野菜班のメンバーは、先日北区にある飛鳥山博物館を訪問し、旧中山道の種子屋通りの歴史について学んできました。大正大学沿いに通る旧中山道はかつて街道として多くの人が行き交っていましたが、そこで自分の国に帰る人へ農家が種を売るようになったことから、種子屋通りと呼ばれるようになったと言われています。今年の農園班は地域の歴史や文化の継承にも力を入れています。

また、今月は盆踊りも開催されます。研究会のブースでは金魚すくいやうちわの絵付けワークショップ、物販の出店を行うほか、農園班ではアクアポニックスの展示などを行う予定ですので、皆様ぜひお越しください！（山本）

飛鳥山博物館を訪問

※本ニュースレターは、JST「流域治水を核とした復興を起点とする持続社会」地域共創拠点活動の一環として発行しています。座・ガモールファーム通信のバックナンバーを含むプロジェクトの概要は右のQRコードからご覧ください。

今月の活動

キャンパス農園班

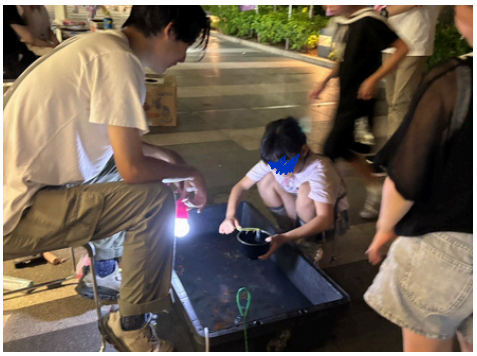
ひまわりが太陽に向かって大輪を咲かせ、本格的な夏の訪れを感じる季節となりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。地域創生学部地域創生学科3年の野沢奏です。

先月6月の上旬には皆様を大正大学にお迎えする学園祭「鴨台祭」が開催されました。恒例の「キャンパス農園ツアー」には、2日間で計105名もの多くの皆様にご参加いただくことができました。今年度は全体の3分の1が新メンバーという新体制のため、事前に予習会を重ねてテラスの野菜やグリーンインフラの仕組みを猛特訓して当日に臨みました。当日は老若男女問わずたくさんの方々に私たちの活動を知っていただき、テラスなどの有効活用に対しても多くの共感をいただくことができました。皆様が熱心に耳を傾けてくださり、対話を通して私たち自身も学びを深められたことは、大きな経験と財産になりました。見えてきた課題をこれからの糧に、より良い農園ツアーを目指してまいります。

そして、鴨台祭を終えて一区切りついたところですが、次なる挑戦として、大正大学の夏の風物詩である「鴨台盆踊り」がいよいよ今月開催されます。私たちは3号館のスペースにて、涼やかな金魚すくいをはじめ、野菜を使った楽しいワークショップ、心を込めた物販など、誰もが笑顔になれる特設ブースを計画しております。

また、先月商店街や地域の皆様にお配りした「巣鴨芋人プロジェクト」のサツマイモたちも、夏の強い日差しを浴びてスクスクと瑞々しいツルを伸ばしています。お祭りの道すがら、街に広がったプランターの様子もぜひ一緒に見守っていただければ幸いです。

非常に活気あふれる忙しい1ヶ月となりますが、盆踊りで再び皆様と直接お会いできる喜びを励みに、暑さに負けず全力で活動に励んでまいります。厳しい暑さが続きますので、どうぞ皆様くれぐれもご自愛を重ねてお過ごしください。今月もキャンパス農園班をよろしくお願いいたします。



去年の盆踊りの様子

座・ガモールファーム

埼玉校舎で収穫した夏野菜

7月に入り、まだまだ雨の日も多いですが、埼玉校舎の野菜は早速収穫期に入ったようです。テニスコートではメークインとキタアカリを収穫したほか、レイズドベッドではナス、ピーマン、甘長唐辛子を収穫しました。数週間後にはスイカやカボチャも収穫できそうです。

巣鴨キャンパスのテラスでは先日夏野菜の植え付けを行いました。今年育てる野菜はキュウリ、ナス、シシトウ、ミニトマト、バジル、トウガラシ、ゴーヤ、カボチャの8種です。中でもカボチャとナスはそれぞれ雑司ヶ谷カボチャと雑司ヶ谷ナスという江戸東京野菜です。豊島区唯一の伝統野菜ですが、これまで育てたことがなかったので、ぜひ収穫を楽しみにしていてください。収穫した野菜は3号館1階で配布しますので、Xやインスタグラムのチェックをお願いします。

また、今年はキャンパス農園班の中で野菜活用・地域交流班というチームが発足したので、野菜活用の幅も広がることが期待されるところです。去年から企画されている子ども食堂との連携や、料理企画など、さまざまな企画がアイデアとして提案されています。

（山本）

詳細はこちら

座・ガモールファームの詳細はこちらから見ることができます。Instagram、note、YouTubeに画像や動画がたくさんあり、Xではイベント告知をするのでぜひご覧ください。

座・ガモールファーム通信　Vol.43 編集：山本空洋（としまグリーンインフラ研究会）
監修：古田尚也（情報科学部グリーンデジタル情報学科教授）